

ミニメド™770Gインスリンポンプ

はじめてみよう! リアルタイムCGM*

*CGM: 持続グルコースモニタ



監修

神戸大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 医師 廣田 勇士 先生

神戸大学医学部附属病院 糖尿病看護認定看護師 松田 季代子 先生

リアルタイムCGM入門ナビ



重要ポイントがわかりやすい!
チェックしながら進めよう!

使用開始時に必要な知識、基本操作を簡易的にまとめたマニュアルです。必ず電子添文とユーザガイドを併せてご確認ください。



2022年6月改訂

リアルタイムCGMとは

リアルタイムCGM*とは

*リアルタイムCGM:以下、CGMと表示



重要!
チェック

インスリンポンプ**の画面に、「**血糖値の参考値となるセンサグルコース値**」をリアルタイムに表示し、グラフや値などで、血糖の変動傾向を確認することができる測定機能です。

※リアルタイムCGMを用いた使用方法には、マニュアルモードとオートモードがあります。

オートモードについては、『はじめてみよう!ハイブリッドクローズドループ』をご参照ください。

**インスリンポンプ(以下、ポンプ)

装着イメージ



CGMを使用中のポンプ画面



※この画面はオートモードがオフになっています。



重要!
チェック

ポンプに表示されるセンサグルコース値は、血糖の変動傾向を示す**参考値**です。
治療調整や高血糖、低血糖の判断は、実測血糖値に基づいて行いましょう。

CGMはどのように測定しているのか

CGMはどのように測定しているのか

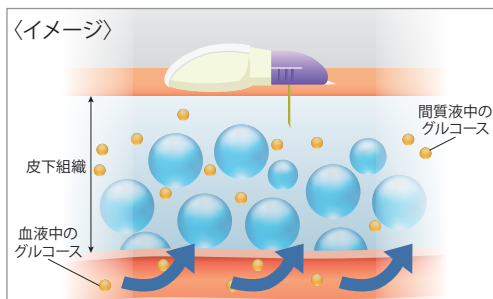


CGMのセンサは、血糖値より少し遅れて上がり下がりする「**間質液のグルコース*濃度**」を測っています。定期的に実測血糖値を入力すること（**校正**）で、間質液で測定した値を血糖値に近づけます。そのためセンサグルコース値は、血糖値の上昇時、下降時は特に血糖値との誤差が生じやすくなります。

※ 校正は非常に重要です。後ほど、校正方法のポイントをご説明します。

* グルコース=糖

間質液のグルコース濃度を測定します



血糖値安定時は血糖値とセンサグルコース値は近い値になります



血糖値上昇時、下降時には誤差が生じやすくなります

血糖値上昇時のイメージ



血糖値下降時のイメージ



リアルタイムCGMをはじめるために

基礎編：
はじめてみよう！
リアルタイムCGM

P.1~2
CGMをはじめるための基礎知識



P.4~6 機器の概要・事前準備



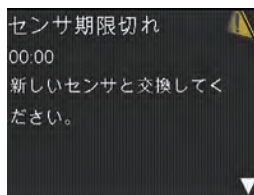
P.7~18 センサ装着方法
(7日に1度行います)



P.19~21 較正方法
(1日3~4回行います)



P.22 センサ交換のタイミング



P.23~27 Q&A

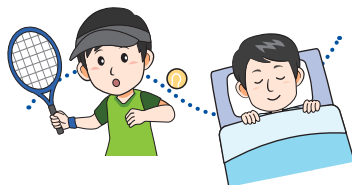


P.28 成功のカギ

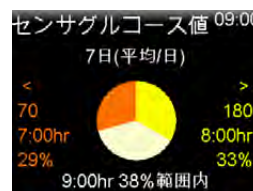


応用編：
もっと便利に！
リアルタイムCGM
を使いこなそう

P.29~32 スマートガード™
一時停止機能



P.33 TIRチャレンジ



P.34~36 重要な注意事項と
サービス登録



CGMと付属品



ワンプレスサータ
(穿刺補助器具)



ガーディアンセンサ3



トランスミッタ



トランスミッタ充電器



テストプラグ

機器	説明
ガーディアンセンサ3	ガーディアンセンサ3 (以下、センサ) は皮下のグルコース値を測定します。
トランスミッタ	トランスミッタがセンサに接続されると、お使いのポンプにセンサグルコース値を送信します。
ワンプレスサータ	ワンプレスサータ (以下、サータ) はセンサを装着するために使用します。
トランスミッタ充電器	トランスミッタの充電を行います。単4電池1個で稼動します。
テストプラグ	トランスミッタの作動確認および洗浄時に使用します。

装着イメージ、交換頻度、通信距離



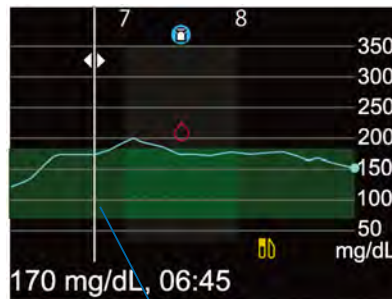
ホーム画面

直近3時間のグラフ トレンドを示す矢印

センサグルコース値
(40~400mg/dLを表示可)



ホーム画面でグラフボタンを押す



カーソル

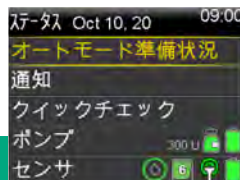
過去3、6、12、24時間のセンサグラフが確認できます。カーソルを左右に移動し、センサグルコース値やボースの注入状況なども閲覧可能です。

※この画面はオートモードがオフになっています。

センサアイコンの種類

種類	センサアイコン
接続	 
較正までの時間	
センサ寿命	

センサ寿命アイコンはホーム画面に表示されません。ステータス画面に表示されます。



トレンドを示す矢印

- ↑ または ↓ センサグルコース値が1分あたり1mg/dL以上2mg/dL未満の速度で上昇または低下した場合
- ↑↑ または ↓↓ センサグルコース値が1分あたり2mg/dL以上3mg/dL未満の速度で上昇または低下した場合
- ↑↑↑ または ↓↓↓ センサグルコース値が1分あたり3mg/dL以上の速度で上昇または低下した場合

センサ装着方法の流れ



センサ装着の準備物



トランスミッタ



ガーディアンセンサ3



ワンプレスサーター
(装着補助器具)



充電器



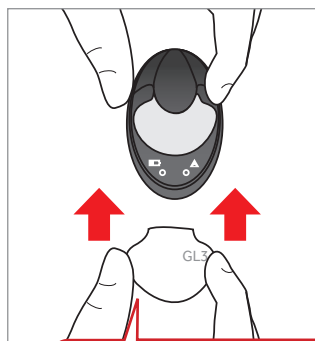
アルコール綿

※初めてトランスミッタを使用するときは、ポンプとトランスミッタをペアリングさせる必要があります。
P.10「機器のペアリング」を参照の上、設定してください。

トランスミッタの充電

トランスミッタを充電する

センサ交換の際、必ず毎回トランスミッタを充電してください。
充電中は充電器の緑のライトが点滅し、完全に充電されると消灯します。



接続部分の損傷を避けるため
絶対にねじらないように気を付ける。

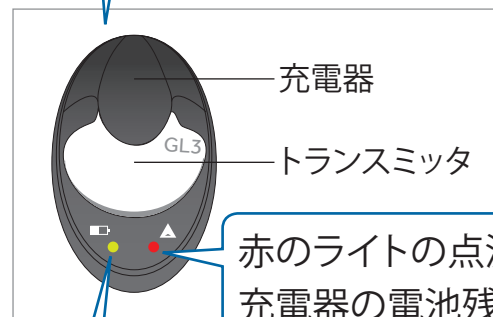
重要!
チェック

電池残量がなくなったトランスミッタの充電には
最大2時間かかることがあります。

センサの使用を一時的に中断したいとき

トランスミッタを使用しない期間がある場合は、トランスミッタの内蔵電池の劣化を防ぐため60日に一度は充電を行ってください。

充電器の電池は
単4アルカリ乾電池を使用する。



赤のライトの点滅は
充電器の電池残量
低下を示す。

完全に充電されると
緑のライトが消灯する。

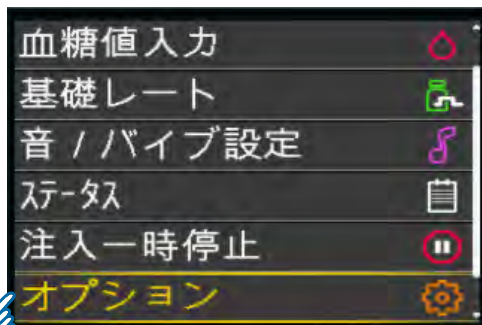
センサ機能 オン



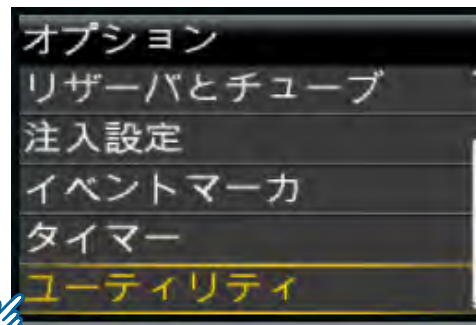
ポンプを操作し、センサ機能を「オン」にする

CGM機能を使用するためにはポンプのセンサ機能を「オン」にする必要があります。
CGM機能を使用しない場合はセンサ機能を「オフ」にします。

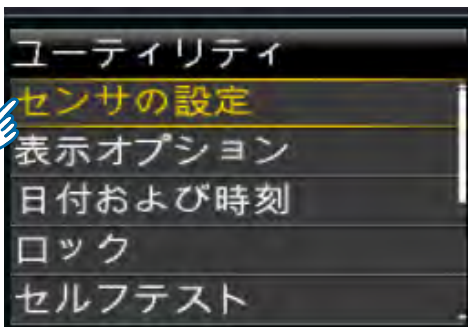
- 1 ホーム画面で⊙を押し「オプション」を選択



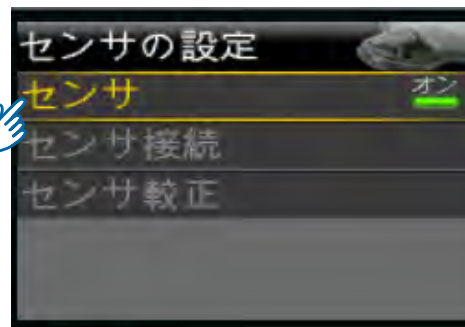
- 2 「ユーティリティ」を選択



- 3 「センサの設定」を選択




- 4 「センサ」で⊙を押し「オン」にする

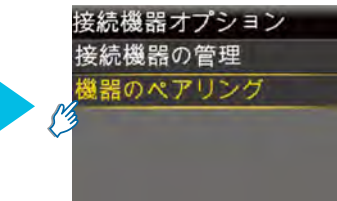
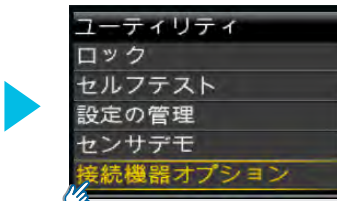
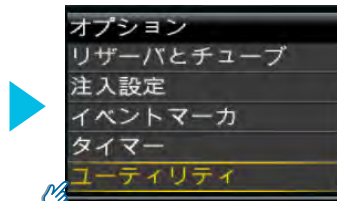
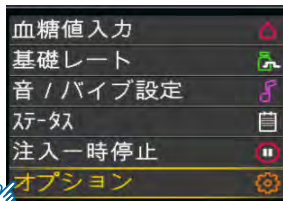


機器のペアリング

インスリンポンプにトランスミッタを認識 (接続) させる方法

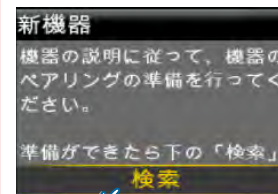

以下の手順へ移る前にまずトランスミッタを充電器にセットしてください。

- 1 ホーム画面で  を押し「オプション」を選択
- 2 「ユーティリティ」を選択する
- 3 「接続機器オプション」を選択する
- 4 「機器のペアリング」を選択する

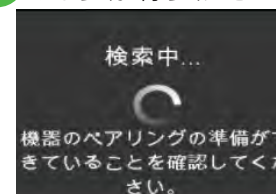


5 トランスミッタを充電器から引き抜き、点滅 (接続モード) にしてから、「検索」を選択する

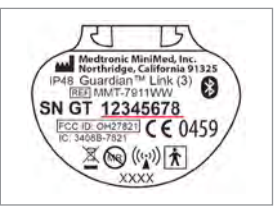
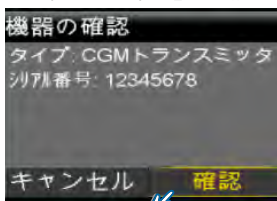
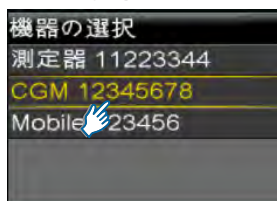
重要! チェック



6 検索中です
しばらくお待ちください



7 表示された新機器のシリアル番号がトランスミッタの裏面のシリアル番号と一致していることを確認し、「確認」を選択する



8 この表示が出れば接続成功



センサの装着

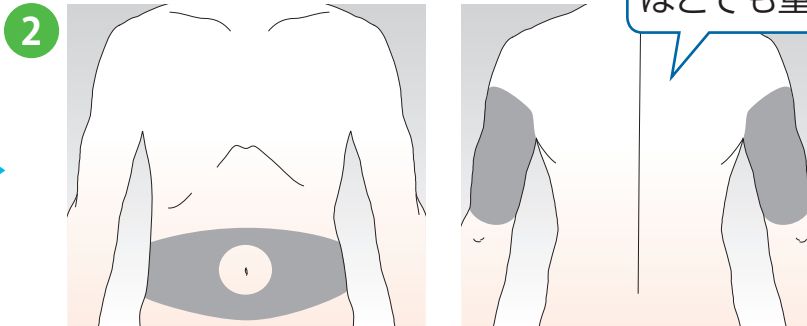


センサを装着する前に、事前にサータの操作方法を練習をしておきましょう。

手をしっかり洗う



適切な装着部位を選択する



センサの精度を保つ
ために装着部位の選択
はとても重要です。

※皮下脂肪の分布は年齢や性別などによって個人差があります。
部位は主治医や看護師にご相談ください。

装着部位の注意点



- センサは**7日**に1度交換しましょう。
- 装着部位は**必ずローテーション**を行いましょ。
- 十分に皮下脂肪がある部位に装着しましょ。

装着を避ける部位



- 皮下にしこりがある(かたくなった)部位
- インスリン注入部位から2.5cm以内の部位
- 締め付けられる部位
- 激しく動くことの多い部位
- 屈曲部位(座った時に入るお腹のシワの部位など)
- 前回の部位から2.5cm以内の部位
- へその周囲5.0cm以内の部位

次ページへ続く

センサの装着

アルコール消毒する

3



センサを取り出す

4



- MMT-7020
- Guardian Sensor(3)



ガーディアンセンサ3であることを確認する。

5



重要!
チェック
センサを触らないよう、台座を持つ。

センサは平らな台の上に置く。

センサ装着方法

粘着タブを確認する

6



重要!
チェック
粘着タブがセンサコネクタとスナップに乗っていると⑩で装着ができません

サータの正しい持ち方

7



重要!
チェック
親指を指紋マークの上に置いてサータを持つ。

重要!
チェック
ボタンを触らない。

センサの装着



センサを平らな台に置き、サータをセンサに押し込む

8a

重要!
チェック

必ず平らな台の上で!

8b

重要!
チェック

ボタンは押さない。

重要!
チェック

一気に下まで! 途中で上げない!

サータを引き上げて、センサから取り外す

9a

プラスチックの台座の両端を押さえて!

9b

重要!
チェック

まっすぐ上に ゆっくりと引き上げる。

重要!
チェック

ボタンは押さない。

次ページへ続く

センサ装着方法

センサの装着



皮膚に密着させる

10a



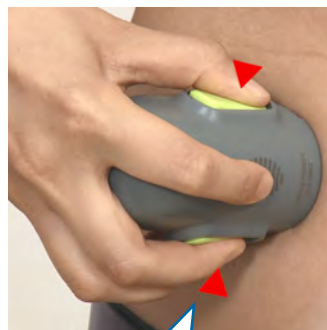
サータを皮膚に押しつけ過ぎない。

指紋マークに親指を置く。

重要!
チェック

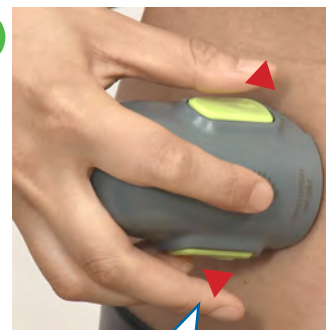
ボタンを押す

10b



サータの両サイドのボタンを同時に押す。

10c



指を離す。

5秒待つ

10d



指を離れたまま5秒待つ。

重要!
チェック

サータを引き上げる

10e



ボタンは押さない。

まっすぐゆっくりと真上に引き上げる。

重要!
チェック

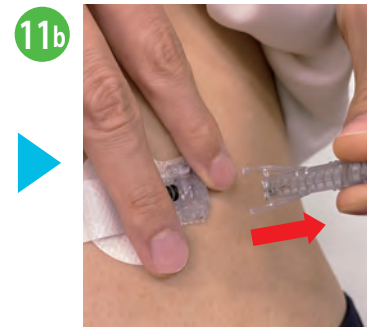
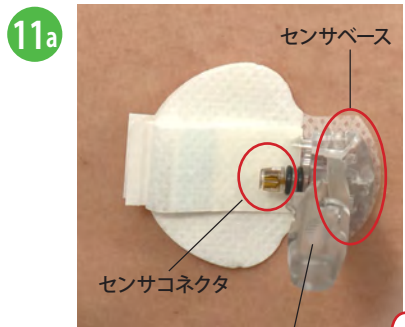
重要!
チェック

センサの装着



センサ装着方法

ニードルハブを抜く



センサが抜けないう、
センサコネクタと
センサベースを押さえる

重要!
チェック

重要!
チェック

ニードルハブの
上部(ギザギザした
部分)を持って!

もう片方の手で
まっすぐ真上に
引き上げる。
ねじらない。

重要!
チェック

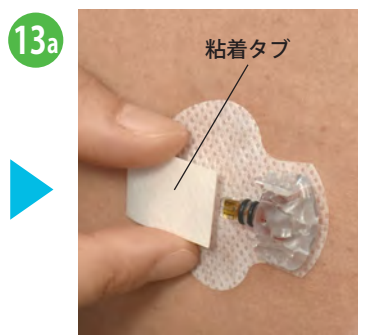
はくり紙をはがす



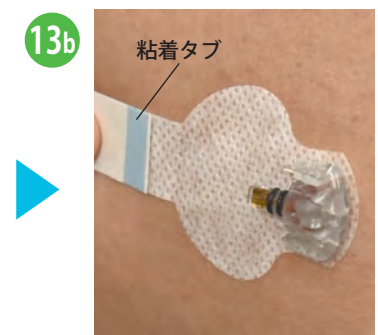
密着させる



粘着タブを引き出す



粘着タブを伸ばす



センサが抜けないう、
しっかり押さえる。

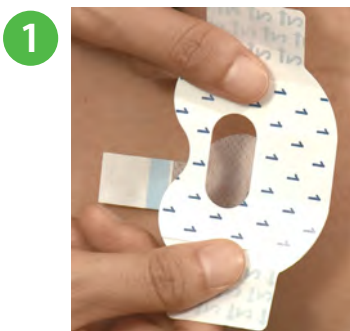
重要!
チェック

トランスミッタを接続する

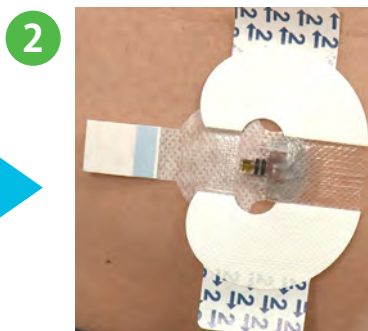


オーバルテープの貼付

1のはくり紙をはがす

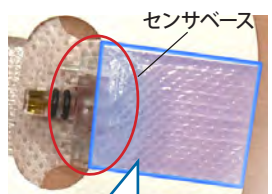


2貼る



重要!
チェック

できる限りテープにシワができないように。テープをひっぱり過ぎて皮膚に負荷がかからないように丁寧に!



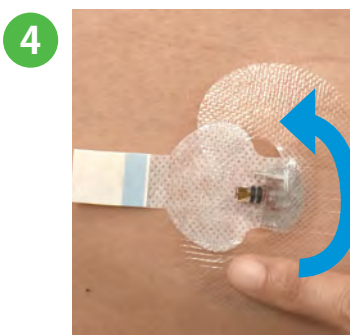
テープの幅広い部分(青枠)がセンサベースの半分を覆う。

2のはくり紙をはがす



両側から「2」のはくり紙をはがす。

密着させる



充電したトランスミッタを接続する



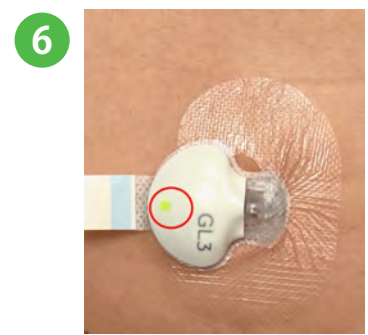
重要!
チェック

センサの頭頂部を押さえる。

重要!
チェック

カチッという音を確認。

点滅を確認する



センサ装着方法

トランスミッタを接続する



粘着タブで固定する



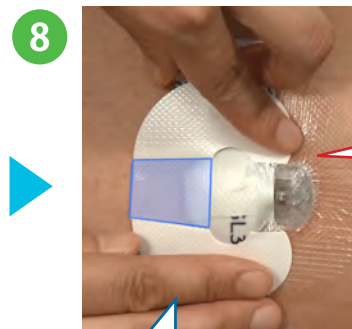
巻き込み過ぎて、トランスミッタが持ち上がらないように注意!

重要!
チェック

2枚目の1のはくり紙をはがす



2枚目のテープを貼る



トランスミッタの端と皮膚の両方を覆うように貼る。

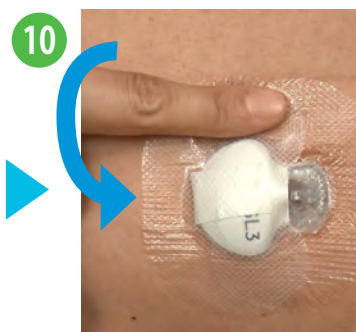
重要!
チェック

幅広い部分の向きを、1枚目とは逆にして貼る。

2枚目の2のはくり紙をはがす



密着させる



センサ装着方法

新センサ使用開始



新センサの使用を開始する

装着したセンサにトランスミッタを接続すると、ポンプとトランスミッタが交信を開始し、ポンプに次の画面が表示されます。このプロセスにかかる時間は通常1分未満ですが、最長10分かかる場合があります。

- 「新センサ使用開始」を選択する

1 **センサ接続完了**
新しいセンサの使用を開始してください。
新センサ使用開始
- 下ボタンを押す

2 **センサ準備開始**
10:07
センサの準備に2時間程度かかることがあります。較正が可能になりしだい通知します。
- 「OK」を選択する

3 **センサ準備開始**
します。
OK
- 4 **準備中...**
250 mg/dL
200
150
100
50
0.0U 残存インスリン

校正の値の範囲とタイミング

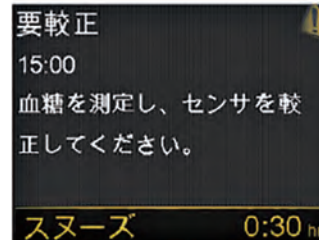
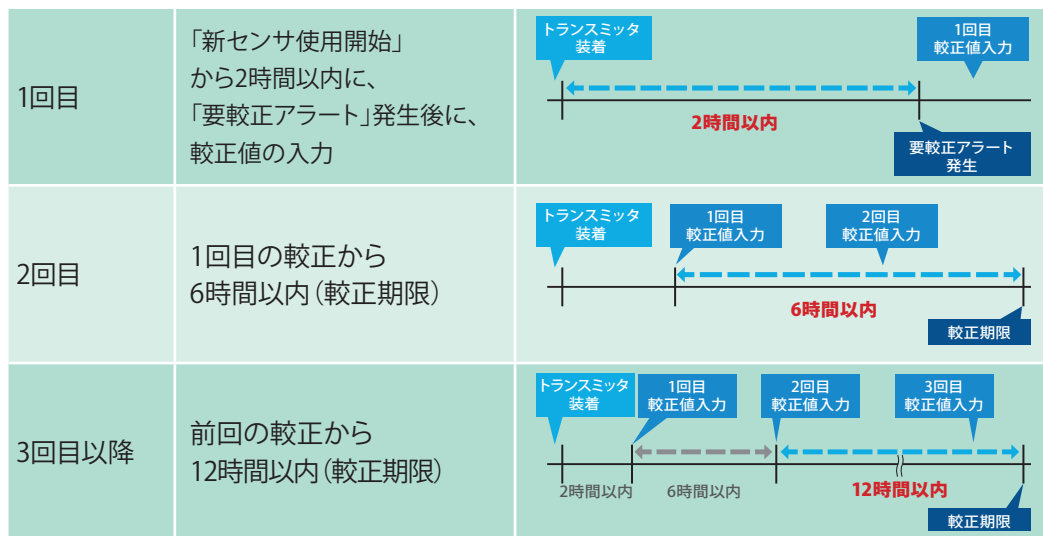
校正で使用できる値の範囲

校正を行うためには**40mg/dLから400mg/dL**の実測血糖値をポンプに入力する必要があります。

- 精度を保つため、**1日に3~4回**の実施を推奨しています。



校正タイミングとイメージ



1回目の校正以外は、要校正アラートが校正期限の1時間前*にお知らせします。
*時間の変更も可能です。

重要!
チェック

校正期限を超えるとグラフは途切れます。

重要!
チェック

測定の信頼性と精度を向上させるために、追加の校正を要求される場合があります。

例) 校正期限12時間の時に、6時間で要校正アラートが発生する。
センサの正しい留置状態、正しい測定が保てるように、センサ装着方法、装着部位の選択、校正方法、テーピング方法に注意しましょう。

重要!
チェック

就寝前に校正を忘れると、深夜や早朝に「要校正アラート」が発生する可能性があります。

較正方法のポイント

センサグルコース値の精度を落とさないために適切な方法で較正を行きましょう

重要! 血糖変動の激しい下記のような時間帯は較正を行わないでください。

チェック

- トレンド矢印が2本以上出ている時
- 食事中や食事後
- 激しい運動中や運動後
- インスリン投与後

トレンド矢印が2本以上出ている時は較正を行わない



※この画面はオートモードがオフになっています。

SG=センサグルコース値

重要! 血糖自己測定は正しい方法で行ってください。

チェック

- 測定部位
- 清潔、消毒
- チップの有効期限 など

重要! 血糖値は速やかにポンプに入力してください。

チェック

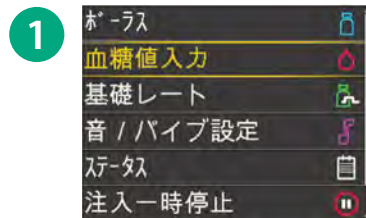


較正のボタン操作

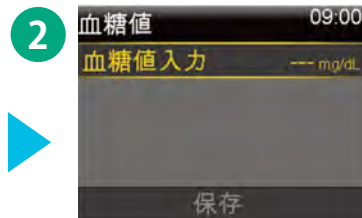
較正方法は以下のいずれかの手順で行ってください。

メニューの「血糖値入力」から較正する

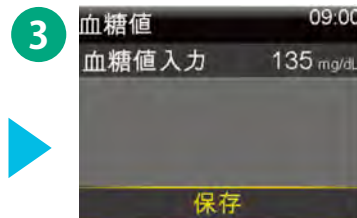
ホーム画面で \odot を押し
「血糖値入力」を選択



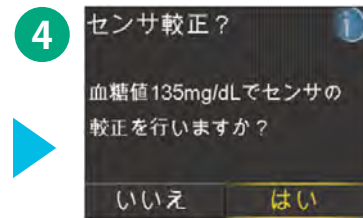
血糖値を入力する



「保存」を選択する

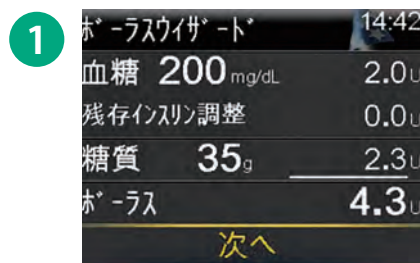


入力した血糖値で較正する
なら「はい」を選択する

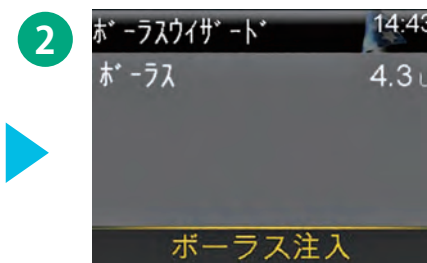


ボースウィザード使用時に較正する

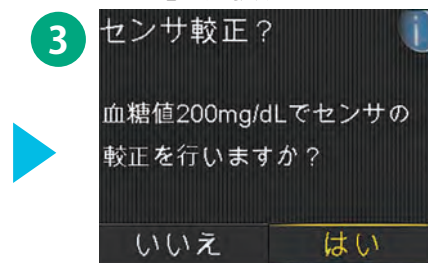
ボースウィザードを使用する



「ボース注入」を選択する



入力した血糖値で較正するなら
「はい」を選択する



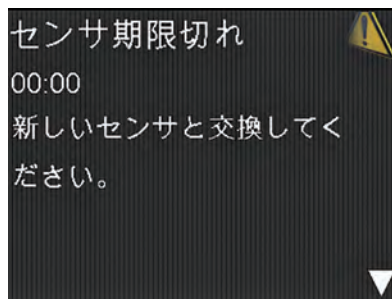
センサ交換のタイミング



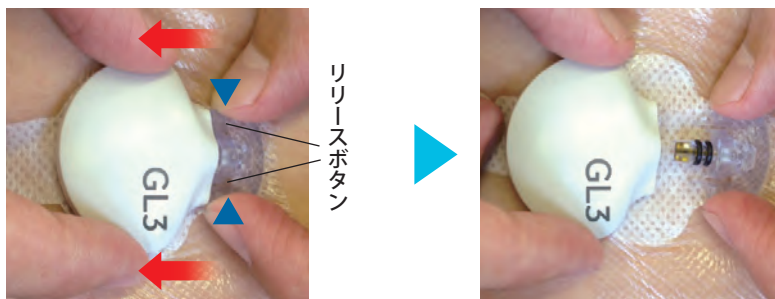
残り12時間以内

センサの使用期限が切れるタイミング

7日間のセンサの使用期限が切れると、下記のアラートが発生します。



リリースボタンを「両側から押し込みながら」トランスミッタをセンサから取り外し、センサをテープと一緒にはがします。トランスミッタは充電します。(充電手順は8ページへ)



※ センサのパッケージに記載されている使用期限までに、7日間のセンサの使用を終えてください。

新センサの使用を開始するタイミング



新センサの使用を開始する際は、うまく装着できるよう時間に余裕のあるタイミングで行いましょう。また、2時間後の初回校正のタイミングを考慮して行いましょう。

※ 血糖変動の安定した食前に初回校正ができるよう、食事の2時間前にセンサの装着 (センサの装着手順は11ページへ) を行うことがおすすめです。

Q & A

Q. お風呂の時はどのようにすればいいですか？

A. トランスミッタは防水ですので装着したまま入浴頂けます。入浴などで一時的にポンプとトランスミッタが通信できない場合は、トランスミッタ内にデータを取りため、通信再開時にデータをまとめて送信します。通信できない時間が30分以上続くと、ポンプはアラートを発生させます。



トランスミッタは
装着したまま入浴可

通信距離は
1.8m以内

重要!
チェック

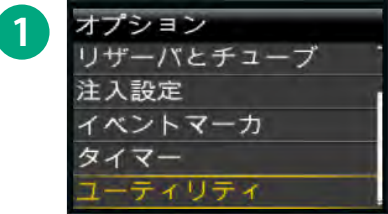
30分以上の通信不可は
アラートが発生します

センサ信号中断
12:00 AM
ポンプをトランスミッタに
近づけてください。信号を
受信するまで15分程度か
かることがあります。

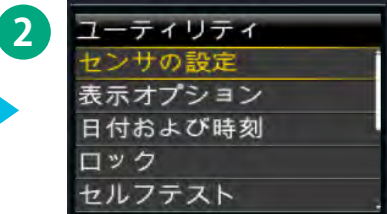
Q. CGM機能をやめてポンプだけにしたいのですが・・・

A. センサを体から取り外し、下記のボタン操作で機能をオフにします。

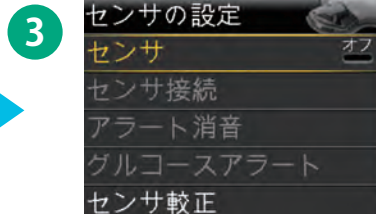
ホーム画面で◎を押し「オプション」
→「ユーティリティ」を選択



「センサの設定」を選択する



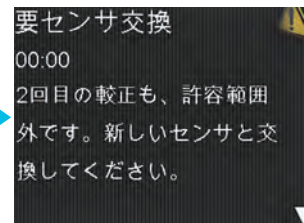
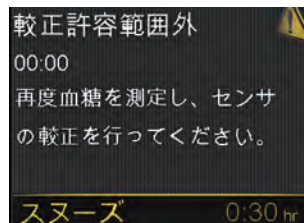
「センサ」で◎を押し「オフ」にする



Q. 「校正許容範囲外」アラートが発生したのですが・・・



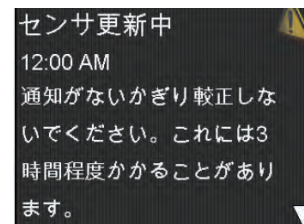
A. しばらく時間をおいてから、血糖変動が安定している時間帯に校正する必要があります。「校正許容範囲外」アラートの後、「センサ更新中」が表示された場合は、「要校正」アラートが出てから校正を行います。「要センサ交換」アラートが発生した場合は、アラートに従いセンサを交換してください。



Q. 「センサ更新中」アラートが発生したのですが…



A. 「センサ更新中」は、測定している値が、低すぎる、高すぎる、または大きく変化し過ぎている場合に発生します。発生した場合は、ポンプにセンサグルコース値が表示されるか、「要校正」アラートが出るまで校正をせずお待ちください。センサの損傷や抜けが原因である場合は、「要センサ交換」アラートが発生する場合があります。3時間以上経っても「センサ更新中」の場合や同じセンサで繰り返し発生する場合は、センサを交換してください。



Q. トランスミッタを洗浄してもいいですか？

A. トランスミッタに残った粘着剤をとるには、医療用粘着剤リムーバーが有効です。トランスミッタを洗浄する際は、テストプラグを必ずつけてください。
トランスミッタの接続部に水などが入ると故障します。



Q. X線検査、CT検査、MRI検査はそのまま受けて大丈夫ですか？

A. X線や電磁波を用いる検査の際は、トランスミッタ、センサ、ポンプを必ず取り外してください。



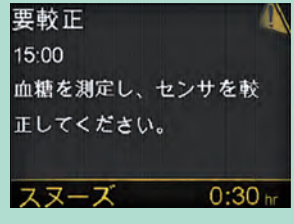
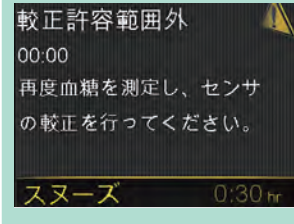
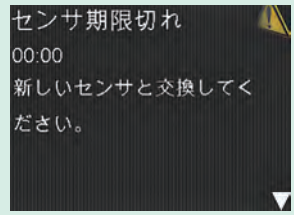
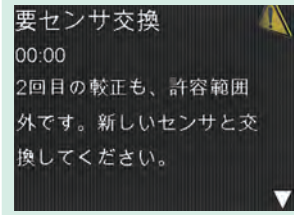
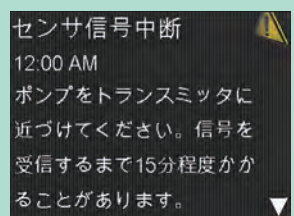
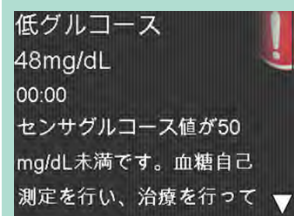
Q. 飛行機に乗る場合はCGMは使用できないですか？

A. 本製品はBluetoothを使用し、ポンプとトランスミッタは通信を行っています。ほとんどの飛行機で、機内でもインスリンポンプおよびトランスミッタをご使用いただくことができます。Bluetoothの接続について、航空会社のガイダンスに従ってください。

- インスリンポンプやトランスミッタを装着して搭乗する旨を、事前に航空会社にご連絡ください。
- 空港の保安検査場では、X線検査にポンプ、トランスミッタ、センサを通さないでください。ゲート型の金属探知機検査は問題ありませんが、ボディースキャナー検査を受ける場合は、検査前にポンプ、トランスミッタ、センサを体から取り外す必要があります。
- 他のインスリン注射手段を必ず携帯してください。

Q & A

Q. よく起こりうるアラート・アラームを一覧で教えてください

アラートの種類	説明と対応	アラートの種類	説明と対応
	<p>校正の期限が近づいています。校正を行ってください。</p>		<p>校正を行いました。センサグルコース値と血糖値との差異が大きいため、校正できません。15分以上時間をおき、血糖値が安定しているか確認の上、必ず血糖自己測定をし直し、再度校正を行ってください。</p>
	<p>センサの最長使用期限(7日間)が経過しました。新しいセンサと交換してください。</p>		<p>上記の校正許容範囲外アラートが2回連続で発生した場合に発生するアラートです。新センサに交換してください。</p>
	<p>ポンプとトランスミッタの通信が30分間中断しています。ポンプとトランスミッタを近づけてください。</p>		<p>センサグルコース値が50mg/dL以下です。血糖自己測定を行い、主治医の指示に従い低血糖に対処してください。</p>

より良い血糖コントロールを目指して

リアルタイムCGM、成功のカギ

センサ装着の手技、装着部位の選択はとても重要です

「重要チェック」を確認しながら正しくセンサを装着しましょう。(装着はP.7～18へ)
正しい手技が、「安定した測定」と「センサを無駄にしないため」のポイントです。
センサ装着部位の選択も大変重要です。



校正のタイミングはとても重要です

センサグルコース値はあくまでも血糖値の参考値ですが、より血糖値に近づけるために正しく校正を行うことが重要です。P.20の「校正方法のポイント」をしっかりと確認しておきましょう。



まずはセンサグルコース値の動きを確認することからはじめましょう

食事、インスリンの投与、活動などがどのようにセンサグルコース値に影響するか、トレンド矢印やグラフの動きを確認し理解しましょう。また、高・低グルコースへの過剰な対処は避けましょう。毎月の受診で、対応方法を主治医に相談しましょう。



※この画面はオートモードがオフになっています。

少しずつカーボカウントとポンプの機能を使いこなしましょう

CGMが自動的に血糖コントロールを改善してくれるわけではありません。
センサ装着や校正をしっかりとマスターし、得られた情報をうまく使いこなすことが大切です。
自分の血糖変動を理解し、少しずつカーボカウントやポンプ機能を使いこなしていきましょう。



ホーラスイザート*	14.42
血糖 200 mg/dL	2.0U
残存インスリン調整	0.0U
糖質 35g	2.3U
ホーラス	4.3U

次へ

スマートガード™ 一時停止機能



スマートガード™ 一時停止機能とは

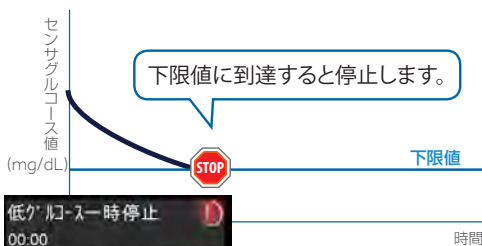
スマートガード™には、「低グルコース一時停止」、「低グルコース前一時停止」、「オートモード」の3種の機能があります。ここでは、一時停止機能の2種についてご紹介させていただきます。以降、スマートガード™一時停止機能とは、「低グルコース一時停止」、「低グルコース前一時停止」を指すものとします。一時停止機能の2種は、低血糖の低減を目的とした機能です。予め設定した下限値を基準に、インスリンの注入を一時停止します。(オートモード機能は別冊の「はじめてみよう!ハイブリッドクローズドループ」をご参照ください)

- ① 低グルコース一時停止: センサグルコース値が下限値に到達するとインスリン注入を一時停止します。
- ② 低グルコース前一時停止: センサグルコース値が下限値に近づくときインスリン注入を一時停止します。

注入停止後、センサグルコース値が回復すると、自動的に基礎インスリン注入を再開します。またセンサグルコース値が回復しない場合も2時間が経過すると自動的に注入再開するシステムとなっており、いつでも手動で注入再開させることもできます。設定内容と対処方法を、主治医とよく相談し使用しましょう。

低グルコース一時停止

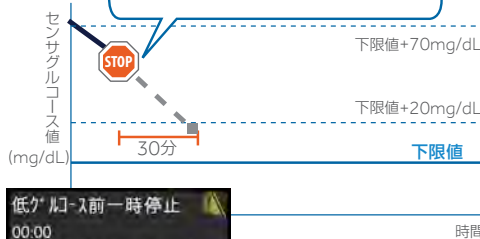
— センサグルコースのトレンド
- - - 予想されるセンサグルコースのトレンド
..... 一時停止中のセンサグルコースのトレンド



低グルコース一時停止
00:00
注入が停止しました。センサグルコース値は60mg/dLです。血糖を測定してください。

低グルコース前一時停止

センサグルコース値が下限値+70mg/dL以下で、かつ30分以内に、下限値+20mg/dL以下になると予測した時に停止します。



低グルコース前一時停止
00:00
注入が停止しました。センサグルコース値が下限に近づいています。血糖を測定してください。

基礎注入再開

注入一時停止後30分が経過しており、センサグルコース値が下限値+20mg/dL以上で、かつ30分以内に下限値+40mg/dL以上になると予測した時に再開します。



基礎注入再開
00:00
センサによる一時停止後22:20に基礎注入が再開しました。血糖を測定してください。

注入一時停止時間が2時間を経過すると、自動的に注入を再開します。

スマートガード™ 一時停止機能

スマートガード™ 一時停止機能 作動中のホーム画面

注入一時停止した時間帯はオレンジ色で表示されます。

「低グルコース前一時停止中」または「低グルコース一時停止中」と表示されます。
一時停止中は、ボラス注入やインスリンの設定変更は行えません。ここで選択ボタンを押すと、手動再開のメニューが開きます。

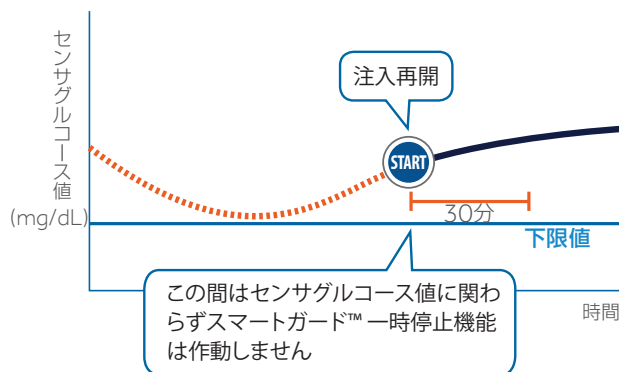


※この画面はオートモードがオフになっています。

スマートガードアイコン
スマートガードがスタンバイ状態のときは、点灯で表示され、注入一時停止中は点滅します。

スマートガード™ 一時停止機能が無効な時間帯

注入再開から30分間は、スマートガード™ 一時停止機能は機能しません。また、下限値に達した際の「低グルコースアラート」と2時間経過後の「注入再開アラート」の両方に対応しない場合、注入再開から最大4時間スマートガード™ 一時停止機能は機能しません。センサグルコース値が測定できない場合も同様に機能しません。



※この画面はオートモードがオフになっています。

スマートガードアイコン
無効な時間帯は、ばつ印で表示されます。

グルコースアラート

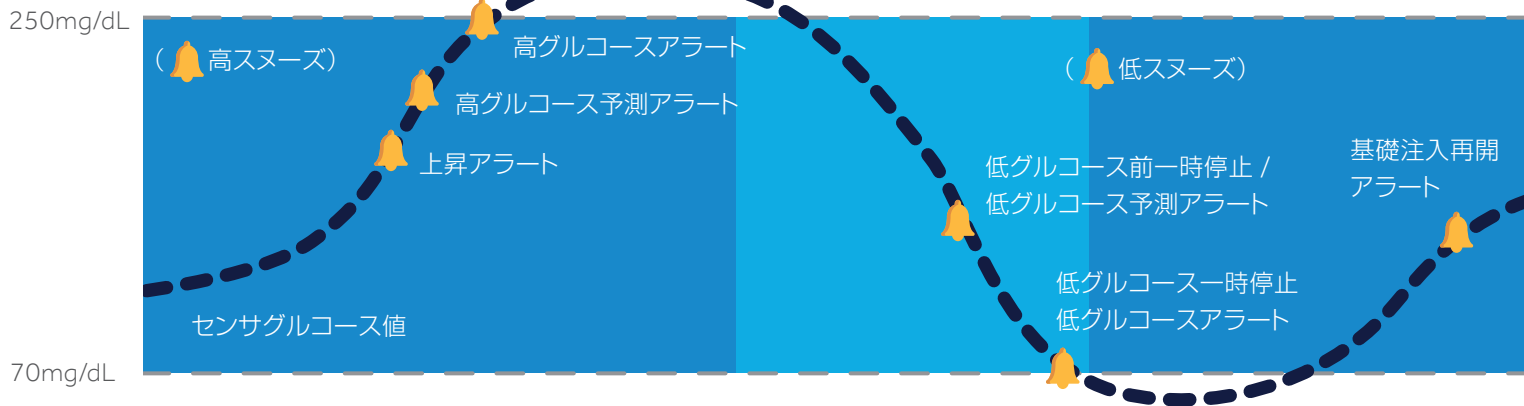
グルコースアラート

グルコースアラートとは、センサグルコース値の変動状況をリアルタイムにアラート通知してくれる機能です。センサグルコース値が上限値や下限値に到達したときや近づいたとき、上昇速度が速いときなどにアラートで通知するよう設定でき、スマートガード™ の注入一時停止機能と共に設定することもできます。（グルコースアラートのみ使用することもできます）

グルコースアラートの種類

重要! チェック 設定数が多すぎたり、設定値が自分にあわない場合、生活の質を下げてしまう場合があります。自分にあった設定内容と対処方法をよく主治医と相談し使用しましょう。

🔔 グルコースアラートの設定



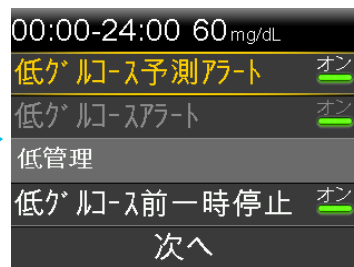
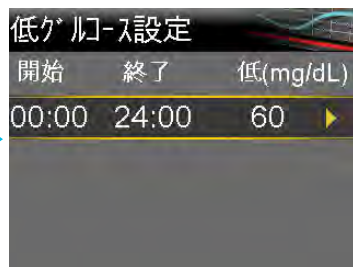
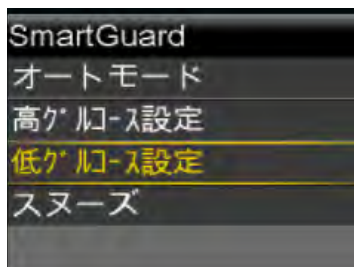
(グルコースアラートのイメージです。)

スマートガード™ 一時停止機能、グルコースアラート 設定方法

設定方法 (例)

※ 例は『低グルコース前一時停止』を設定する場合の画面です(グルコースアラートも同様の手順で設定できます)

メニュー → オプション → SmartGuard



「低グルコース設定」、
「高グルコース設定」は、それぞれ
のメニューより設定できます。

下限値(高グルコース設定の場合
は上限値)は時間帯ごとに設定でき
ます。(8設定まで可)

設定した時間帯に使用するスマート
ガード™ 一時停止機能やグルコース
アラートを設定します。

時間帯や閾値の設定を確認した
上で、「完了」を選択し、設定を保存
します。

オフにできないアラート

	低グルコース前 一時停止オン	低グルコース 一時停止オン	低グルコース前一時停止オフ 低グルコース一時停止オフ
低グルコース予測アラート	オン/オフ	オン/オフ	オン/オフ
低グルコースアラート	オン	オン	オン/オフ
注入再開アラート	オン/オフ*	オン/オフ*	-

黄色 = オフにできません

* 注入一時停止の最大時間2時間を経過した際の「注入再開アラート」はオフにできません

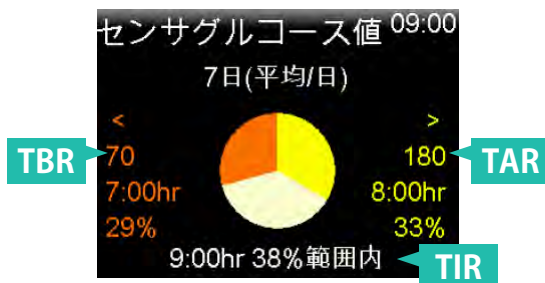
もっと便利にICGMを使いこなそう

センサグルコース履歴の活用方法



TAR、TIR、TBRとは

センサグルコース値が24時間平均で何%が上限値より高かったかを示すTAR (Time above Range)、何%の時間が範囲内にあったかを示すTIR (Time in Range)、何%の時間が下限値より低かったかを示すTBR (Time below Range) があります。ミニメド™770Gインスリンポンプでは、履歴より、TIR、TAR、TBRをいつでも確認することができます。

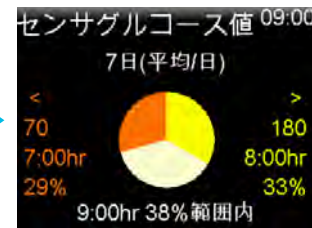
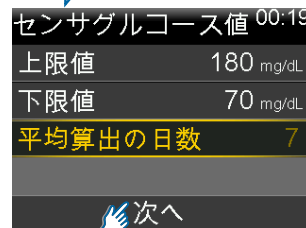


設定と目標値

設定と目標値は、必ず主治医と相談し、決定しましょう

設定	上限値	mg/dL
	下限値	mg/dL
	平均算出の日数	日
目標	TAR (上限値より高い)	%
	TIR (範囲内)	%
	TBR (下限値より低い)	%

確認方法



主治医と相談した上限値、下限値を設定し、平均算出の日数を確認したい日数に合せ、「次へ」を選択。

ケアリンク™ レポートでもTIR等が確認できます。

リアルタイムCGM使用時の重要な注意事項

重要!
チェック

1. センサグルコース値は、「参考値」です。高血糖や低血糖が疑われる場合は、必ず血糖自己測定を行い、血糖値を確認してから対処してください。
2. リアルタイムCGM使用時は精度を保つため、1日3~4回の較正(実測血糖値の入力)を必ず実施してください。血糖値の入力は、血糖変動が安定しているとき(P. 20較正方法のポイントを参照)に実施してください。
3. ポンプとリアルタイムCGMは精密器械です。取り扱いには十分ご注意ください。(落下や衝撃を与えないよう注意し、高温・多湿などの環境下で保管しないでください。)
4. X線装置、MRI装置、CTスキャン装置またはジアテルミー装置が設置された検査室に入る前に、ポンプ、センサ、トランスミッタ、および血糖自己測定器を必ず取り外してください。
5. 携帯電話やワイヤレスネットワークなど高周波を使用する機器を使用している場合は、ポンプとトランスミッタ間の通信が干渉を受けることがあります。この場合には、ポンプとトランスミッタをこれらの機器から遠ざけるか、機器の電源を切ってください。この干渉により誤ったデータが送信されることはありません。
6. スマートガード™ 一時停止機能やグルコースアラート機能はセンサグルコース値に基づいて作動します。センサと血糖値の乖離を防ぎ、機能を正しく動作させるため、センサの装着部位の注意点および装着方法(P. 7~18)、較正のポイント(P. 20)に注意してください。
7. トランスミッタの電池切れやセンサ信号が受信できない場合、スマートガード™ 一時停止機能やグルコースアラート機能は作動しません。通信の回復が難しい場合は、定期的にポンプの注入状態及び血糖値を確認してください。

リアルタイムCGM使用時の重要な注意事項

8. センサを装着している時に、アセトアミノフェン（パラセタモール）が含まれる薬剤（解熱剤、風邪薬など）を服用すると、センサグルコース値が誤って上昇することがあります。
その程度には、服用量や個人差があります。低血糖を防ぐために、血糖値を測定し治療を決定するようにしてください。
9. ヒドロキシカルバミド又はヒドロキシウレアが含まれる薬剤（癌などの治療薬）を服用すると、血糖値に対してセンサグルコース値が高く測定されるため、CGMによるグルコースモニタを行わず、必ず血糖自己測定により血糖値をモニタしてください。
10. 緊急事態の対処方法をあらかじめ主治医と決めておいてください。
11. 低血糖・高血糖など体調に異変があった場合、ただちに医療機関へご連絡ください。（お出かけの際には緊急情報カードなどご自身が糖尿病であることが証明できるものをご持参ください。）

安全、快適に使用するために

サービスの登録をしましょう



ポンプやCGMをより安全に、より快適にご使用いただくためのサービスを提供しています。ポンプ・CGMの使用を開始したら、速やかに以下のすべてのサービスに登録しましょう。登録が済んだらチェックボックスにチェックを入れ、登録漏れのないように確認してください。

チェック!



登録書



- ・ポンプやトランスミッタの使用者初期登録
主治医からの処方指示に基づき、ポンプやトランスミッタをご使用いただくにあたり、必要な患者さん情報をご提供いただく登録用紙になっています。必要事項をご記入いただき、今後の安全情報の提供、サポートラインにおける対応の管理等を行う目的で、当社にて登録させていただきます。

チェック!



Club Lenny for Patient



- ・メール配信サービス
ポンプ・CGMの安全使用に関する情報や、新しい取り組みやイベントについて配信します。
- ・ハローレニー! (はじめてすぐの患者さん向け電話サポートサービス)
ご希望の日程と時間帯をご登録いただくと、サポートラインよりお電話を差し上げます。製品の使用に関する疑問やご不安の解消にお役立てください。



チェック!



ポンプアクセサリショップ



- ・オシャレな商品だけでなく、胸元や足等にポンプを装着いただける機能的な商品などをご用意しております。多彩なカラーバリエーションからお選びください。
- ・アカウントを作成の上ご注文いただくと、商品をご指定のご住所へお届けします。
※アカウント作成には、ポンプのシリアル番号が必要です。



もっと便利に！CGMを使いこなそう

お困りのときは——



■ 医療機関連絡先:

- ・高血糖や低血糖など体調に異変がある場合
- ・インスリン量の調整など治療に関する相談が必要な場合
- ・患者さんやご家族による対処が困難な場合
- ・故障や破損、付属品が足りなくなった場合(ご注文や発送依頼)



■ 日本メドトロニック24時間サポートライン: **0120-56-32-56**

- ・ポンプの使用方法や、アラート、アラーム対応などでお困りの場合

コール ミニ コール

(24時間365日)



■ 日本メドトロニックウェブサイト: www.medtronic.com/minimed770g

- ・製品の使用方法やよくある質問などをご紹介します。

Club Lennyとハローレニー!に登録しましょう

クラブレニー登録のお願い

- ・製品をより安全に、安心してお使いいただくためのメール配信サービスです。
 - ・製品の使用を開始する際、できるだけ速やかにご登録をお願いいたします。
- また、すでに使用を開始されている方も、同様にご登録をお願いいたします。



www.medtronic.com/clublenny

ポンプアクセサリショップのご紹介

<https://www.medtronic.com/pumpshoppt>



日本メドトロニック株式会社
ダイアピーティス

〒108-0075 東京都港区港南1-2-70

medtronic.co.jp

販売名: メドトロニック ミニメド 700シリーズ
販売名: メドトロニック ガーディアン コネクト

医療機器承認番号: 30300BZX00256000
医療機器承認番号: 22900BZX00321000

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。
© 2021, 2022 Medtronic. Medtronic、メドトロニック及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。
TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。

DIAB2108-06 rev.3

Medtronic